

第2回協議会だより《中方部》

令和7年10月28日（火）9:30～11:30

【授業と保育の相互参観】 あさひがおか保育園



あさひがおか保育園は、きれいな公園が目の前にあり、すぐそばに小学校や中学校、商業施設がある環境に立地しています。園庭には、木製の複合遊具やサッカーを楽しむエリア、小さな子が砂遊びを楽しむ砂場などがあり、当日は肌寒さを感じる気温でしたが、子どもたちは思い思いの場所や遊びを選び、活発に体を動かして楽しんでいました。3歳未満児クラスでは、子ども一人一人の担当の保育士が決まっている「育児担当制保育」を行っており、決まった保育士が対応することで、何よりも子どもたちが安心感をもって過ごすことができ、愛着形成につながると伺いました。それぞれの部屋は子どもたちの発達を意識した玩具が提供され、壁なども有効に使われていました。3～5歳児は、異年齢で過ごす時間が多く、子どもたちが様々な遊びを選び展開できる環境が整えられていました。給食やおやつはホールを活用し、子どもたちが自分たちのタイミングで食べています。

【協議会】

テーマ 幼保小の相互理解と円滑な接続の在り方について



① 保育参観について

- ・「不快が満たされることで快に変わっていく」と聞き、その経験を重ねることが必要だと感じました。
- ・育児担当制保育の良さを感じました。小さな変化にも気付くことができると思います。

② 自発的な活動や遊びを通して育まれる資質・能力について

- ・子どもたちの遊びや活動において「10の姿」の中のどの部分が育まれているかを考え、1つの活動に1つではなく、1つの活動の中にたくさんの10の姿が隠れていることを感じることができました。

③ 気になる子の支援について

- ・乳幼児期は自分の思いが認められる（満たされる）経験が必要であり、その経験が小中高での経験につながっていくと思います。

《参加者からのアンケート》

- ・発達段階に応じて、子どもに獲得させたい力やそのために整える環境等も変わってくることがわかりました。
- ・子どもたちは周りの様々な環境に影響を受けながら自身の危機管理や基本的生活の自立、コミュニケーション力を学んでいくと思いました。人的環境を含め、環境の設定や提供の大切さを実感できました。